

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



スツキリ解決 Q&A



Q：支援員と良好な関係を築くためにはどうしたらよいか？

- 1 担任とサポーターの関係づくり
 - ・個別の指導計画を基に、子どもに関する情報を共有し、具体的な支援方法を確認する。
 - ・日常的に打合わせの時間を設けたり、連絡ノートで情報交換をしたりする。
- 2 子どもとサポーターの関係づくり
 - ・対象児だけでなく、困ったときにはみんなを支援することを確認する。サポートしやすいように、サインを決めておく。
 - ・当たり前に行っているときも声をかける。
- 3 その他
 - ・少しずつ支援をフェイドアウトする。
 - ・対象児を支援員任せにしない。

Q：小学校1年生（特別支援学級在籍）の排せつ指導の効果的な方法は？

- ・排せつ指導の基本は、尿意を感じたらトイレで排せつし、それ以外の場ではさせないようにすることと、お漏らししたら気持ち悪く感じることをポイントである。（おむつをしたままの排せつ指導は論外）
- ・定時排せつ、排せつの要求指導（トイレに行きたい要求を言葉や身振りで示させ、その後トイレでの排せつを指導する）を行う。お漏らしに対しては、次回には要求するように指導し、うまくいったらほめる。
- ・子どもの好きなキャラクターを置くなど、トイレを楽しい空間にする。
- ・「失敗しても大丈夫」と、おおらかに構える。

Q：冷たいご飯を食べたがらない子どもへの指導は？

- ・昨年まで、給食時にご飯を電子レンジで温めていた。しかし、4月から職員室に置いていた電子レンジを撤去したところ、初めは納得しない様子だったが、なくなった「変化」に慣れて、不安定になることが減った。
- ・1（こだわり）+1（対応）=2（軽減）ではなく、1+1=0になるよう改善を図る。
- ・食事指導のキーワードは、「楽しく・おいしく・互いが歩み寄りができる関係」である。

Q：特別支援学級における「あいさつ指導」の効果的な方法は？

- ・着替え等の朝の準備が終了後、職員室の先生方に挨拶する場面を見た。校内の先生方が関わるよい機会であるが、日々の生活の流れに沿って、現実的な状況下で指導してほしい。
- ・あいさつだけのために職員室に行くのではなく、健康観察カードを届ける、配布物を取りに行く等、必然性（目的）をもたせる。毎日繰り返される活動なので、あいさつの仕方も段階的、発展的に目標を上げていく。

Q：愛着障害の子どもへの対応について知りたい。

- ・愛着とは子どもと親との間に生まれる絆である。生まれてから後に獲得される。愛着には臨界期（生後1歳半頃まで）があり、その時期を過ぎると、愛着形成はスムーズにいかなくなる。愛着障害は幼少期に母親や養育する人から虐待を受けたり、ネグレクトなどで甘えたい時に甘えられない、頼りたいのに頼れないという状態が続いたことにより問題行動が現れる後天的なもの。発達障害と愛着障害は時として似たような症状が現れるので間違われやすい。
- ・愛着障害の子どもは、人のことが信じられない。最初からすぐに信頼を得るといのは難しいので気長に対応する。乱暴な言葉を吐いたり、不適切な行動を起こしたりしても、嫌いだからそんな行動をとるということではない。愛着障害の子どもは、優しくされたらどう接したらよいか分からず、この人は信頼できる人なのかと探っている。ゆっくりと、気長に子どもが歩み寄ってくるのを待つ。校内においては、チームで対応し、子どもが安心できる環境を用意する。

